

都市再生委員会（第1回）での主な意見

①地 形（斜面地・平地部・中心部）

- ・ 斜面は長崎の魅力、大きな強みである。
- ・ 斜面市街地は、豊かな緑地を感じさせ、夜間の景観を作っており、重要な役割を果たしている。
- ・ 周辺部と中心部の役割分担をどうしていくか、真剣に考えるべき。

課題

- ・ 近年は斜面の空家化が進んでおり、こういう低未利用地を緑地、夜景の観点から、どういうふうに活用していくかが課題である。
- ・ 将来的に斜面地をどうするのかは非常に難しい問題である。

アイデア

- ・ 斜面地での生活や文化等を研究する拠点として何か出来ないか。
- ・ 斜面地を一旦山に返すなど、新たに斜面を考え直すという手法もあって良い。
- ・ 平地部の住宅供給量のコントロールが課題である。
- ・ 住宅地のかなりの部分が周辺部にあり、路面電車の延伸など交通計画などを検討する。

②環 境（パーク&ライド・路面電車）

- ・ エコシティ長崎をもっと打ち出すべき。
- ・ 路面電車は非常に貴重な財産であり、もっと上手く使うべき。
- ・ パーク&ライドや路面電車がある。

アイデア

- ・ パーク&ライドで、路面電車または自転車に乗り換える。
- ・ 路面電車は旭大橋の方まで延伸する。
- ・ 周辺住宅地への路面電車の延伸など交通計画を検討する。（再計上）
- ・ なるべく車を置いて路面電車に乗るなど、ヒューマンサイズの長崎をつくる。
- ・ 船と路面電車を直接つなぐなど、普通あまり有り得ないパターンもあって良い。

③歴史・文化

- ・ 長崎の良さは、長崎人の暮らしの中に根付いた文化・伝統というものを売りにする部分もある。暮らしを見せるということが出来る暮らしにする。
- ・ 現代的な文化の享受が提供されていない。音楽など良い催しが少なく現代的な何かが弱い。
- ・ 産業都市としての魅力として現在の学術的な何か繋がりを出す。
- ・ キリスト教遺産群の26聖人については、殉教の数的にも例がなく、アジアの拠点になるのではないか。

④商 品

- ・ 素材は沢山あるが、観光都市として売り上げを上げるための経営資源になるような素材の見極めが必要である。
- ・ 長崎らしく興味をそそるものがあっていい。どこで何を買わせるか、商品開発も併せてしっかりやる必要である。
- ・ 長崎のもてなしをどうするか、売れるものをどう用意するかが非常に大事である。

⑤食

- ・ 食と歴史が今後の観光に期待できる要素である。
- ・ 食物が美味いか不味いかで、物凄くその地域のイメージが変わる。
- ・ 長崎の魅力は「食」であり、魚が有名である。

課題

- ・ 新鮮な魚料理を出すおいしい店が少ない。長崎には食を活かせる施設が少ない。
- ・ 全国的に有名なふぐやマグロの水揚げ高は大きくても、長崎市内に出回ってなく、長崎の特産品として認知されていない。観光客はマグロが好きであるのに、食べられる場所がない。
- ・ 食の観点から言えば宝の持ち腐れ、誇れる県産品を地元で食べられる施設をつくり、それを情報発信して、旅行会社に売っていただくということが、長崎の食に関する課題である。
- ・ 長崎の中国人に対する食の戦略が大事だと思う。長崎の食物を食べさせるだけでも、中国人に対しては魅力ある。

⑥景 観

- ・ 景観を何とかしなければならぬ。
- ・ グラバー園、出島のやり方は過去の遊園地スタイルであり、市が規制をかけるなりしないと本物の街にはならない。
- ・ 景観というのは非常に重要な資源である。観られるものとして、斜面の市街地は重要であり、豊かな緑地を感じさせ、夜間の景観を作っており、重要な役割を果たしている。(再計上)
- ・ 三菱の造船所は世界でも有数の工場施設であり、貴重な船舶が停泊することもある、工場・工業景観である。

課題

- ・ 南山手・東山手の伝建地区を活かしきれていない。
- ・ 近年は斜面の空家化が進んでいる。こういう低未利用地を緑地、夜景の観点から、どういうふうに活用していくかが課題である。(再計上)

アイデア

- ・ 東京湾では京浜臨海工業地域の景観を活かしたクルージングが行われており、長崎でも工場・工業景観を活かした取り組みを行うべき。
- ・ いろんな眺望点の検討と眺望点から見せる工夫が必要である。

⑦コンベンション・ホテル

- ・ 国際観光として、コンベンション施設が足りない。
- ・ スポーツ大会、コンサート、駐車場施設を備えた 5000 人規模のコンベンシ

ョンが必要である。

- ・ 回遊性を高める議論を踏まえたうえで、外国人にどうお金を落として頂くか検討すべき。その中で、コンベンション型の施設をどうやって作っていくのか、どう集金するのかを考えるべき。
- ・ 国際的なホテルがなく、民間を誘導する環境を整える必要がある。

アイデア

- ・ AIG 横や新駅の周辺にコンベンション施設をつくるべき。

⑧交通・回遊性

- ・ クルーズと飛行機のチャーター便は、外国人を呼ぶ手段として大事である。
- ・ 歩行者の視点から立った整備も必要である。
- ・ 歩いて楽しい街づくりを目指すべき。

課題

- ・ 高速道路や新幹線で交通の便が良くなると、福岡など他の地域に行き宿泊する可能性が高くなる。いかに観光客を宿泊させ、長崎に金を落とさせるかが課題である。

アイデア

- ・ 回遊ルートの整備で、特に稲佐山へのアクセスルートの整備が必要である。
- ・ 回遊性を高める議論を踏まえたうえで、外国人にどうお金を落として頂くか検討すべき。

⑨医療

- ・ ヘルスツーリズムが最近盛んである。長崎大学医学部があるし、今後患者が減っていくことも考えると、東南アジア、中国あたりの富裕層を誘致することは現実論である。

⑩人材・おもてなし

- ・ 長崎人のホスピタリティは非常に熱い。
- ・ 観光の担い手の育成が大事である。
- ・ もてなしの心を教育するには時間もお金に係る。
- ・ 観光客へのアンケートにおいては、おもてなしの部分は弱いという結果になっている。長崎は観光客に優しいということをPRしながら、観光振興につなげていくべき。

⑪その他

- ・ この検討は、この長崎の街にとって最後のチャンスである。
- ・ 国際観光の中で長崎がどう生き残るかがテーマである。
- ・ その都市のオリジナリティーなり、都市らしさが知れ渡っていくことが大切である。
- ・ それぞれの開発計画がリンクしているのか疑問である。
- ・ もっと腰をすえて外国人を呼び込む戦略をこの機会に努力すべき。
- ・ 長崎が外国人等に対して何を訴えていけるのか考えるべき。
- ・ 中国人を呼ぶときにオランダをもっと売りにする。日本だけだと刺激が弱い。出島もあることだし、オランダをもっと強烈に使うよう再検討すべき。

斜面地計画



斜面市街地再生事業

老朽住宅の密集、公共施設の不足等により、居住環境の整備及び良質な住宅の必要と認められる斜面住宅地において、住宅事情の改善、居住環境の整備、老朽住宅の建て替えの促進等、公共施設の整備などのハード整備と乗り合いタクシー、ゴミだし援助等のソフト整備により定住できるまちづくりを行なっている。



斜面移送機器
(簡易型リフト)



斜面地移送支援
ゴミだし援助



乗り合いタクシー・小型バス



賃貸コミュニティ住宅の整備



グラバースカイロード

コンベンション施設

- ・長崎県内におけるコンベンションの開催状況・・・年950件程度
- ・年間の参加人員・・・約31万人
- ・規模別件数・・・100人未満の割合が高い
- ・宿泊が想定される全国大会や国際大会・・・約45%

長崎県内の大会・会議の開催件数 及び、参加人員

	件数	参加人員	平均
平成10年	972	338,239	348
平成11年	965	341,017	353
平成12年	968	344,995	356
平成13年	976	294,298	302
平成14年	941	252,708	269
平成15年	863	298,371	346
平成16年	845	253,508	300
平成17年	889	299,584	337
平成18年	982	336,154	342
平成19年	993	317,632	320
平成20年	986	343,157	348
	944	310,878	329

大会・会議の規模

100人未満	416	42%
100人以上～300人未満	317	32%
300人以上～500人未満	102	10%
500人以上～1,000人未満	77	8%
1000人以上から2,000人未満	46	5%
2,000人以上	28	3%
	986	

規模	件数	割合	参加人員	割合	平均規模
県内大会	636	65%	143,438	42%	226
九州大会	178	18%	44,568	13%	250
西日本大会	16	2%	3,337	1%	209
全国大会	141	14%	111,969	33%	794
国際大会	15	2%	39,845	12%	2,656
計	986		343,257		348

資料：長崎市「平成20年度観光統計」

コンベンション施設

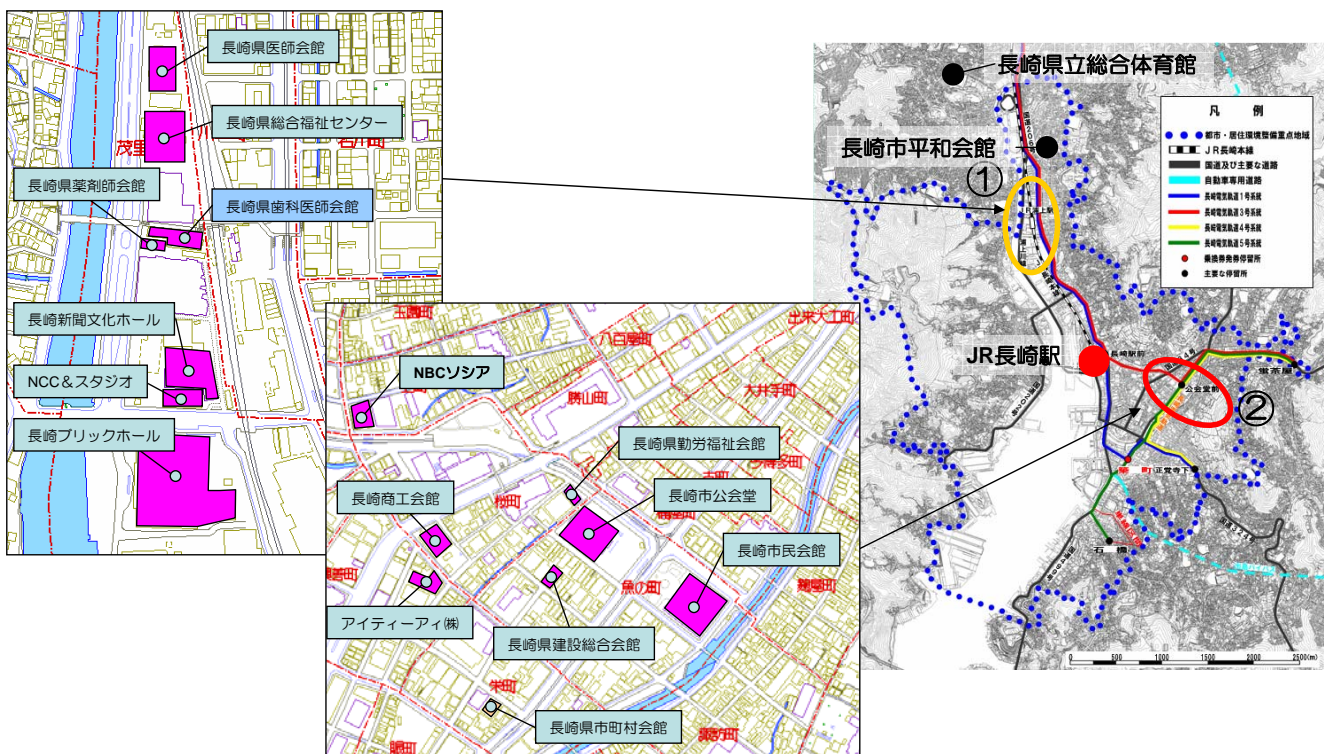
- ・重点地域内の500人以上収容可能なコンベンションは12施設
- ・3,500人規模の施設がエリア内の最大施設
- ・集中エリアは大きく二つに分散

収容人員規模	施設数	施設名	主会場	主会場収容人員
1,000人以上	4	長崎県立総合体育館	メインアリーナ	最大5,600人
		長崎市民会館	体育館、文化ホール	3,586人
		長崎ブリックホール	大ホール、国際会議場	2,002人
		長崎公会堂	ホール	1,747人
500～999人	8	長崎新聞文化ホール・アストピア	翔鶴の間	700人
		長崎市平和会館	ホール	716人
		長崎大学中部講堂	中部講堂	712人
		三和公民館	ホール	614人
		長崎県総合福祉センター	大会議室	600人
		長崎市野母崎文化センター	多目的ホール	578人
		長崎市チトセピアホール	ホール	500人
		長崎市南部市民センター	多目的ホール	500人

① JR浦上駅周辺 ② 長崎電気軌道公会堂前駅周辺 上記以外の重点整備地域内

コンベンション

長崎のメインコンベンションホールである長崎ブリックホールを中心に大小7つのコンベンション施設が集中しており①、長崎最大のコンベンションゾーンを形成している。また、長崎市公会堂周辺にも多くのコンベンション施設が集中②しているが、



出典：(社)長崎国際観光コンベンション協会ホームページ

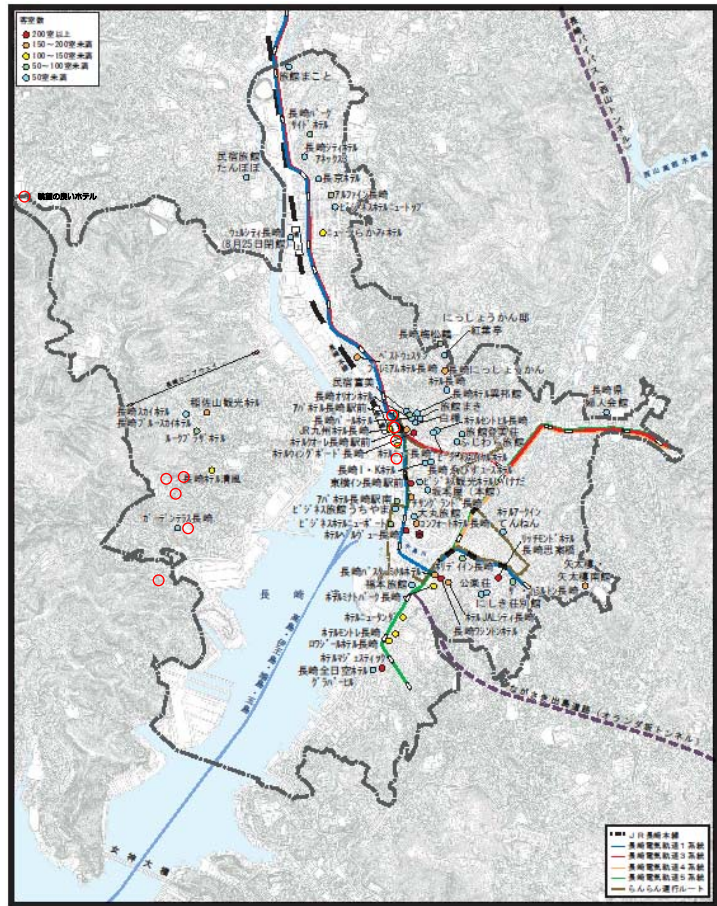
ホテル

重点整備地域内のホテルの状況

分類	うち眺望の良いホテル※
200室以上 6施設	0
150～200室未満 9施設	3
100～150室未満 8施設	1
50～100室未満 9施設	2
50室未満 30施設	4
計62施設	10

長崎コンベンションガイドブックによる整理

※立地により判断



「長崎市中央部・臨海地域」
都市・居住環境整備重点地域
【産業】ホテル

出典：長崎コンベンションガイドブック
(社)長崎国際観光コンベンション協会

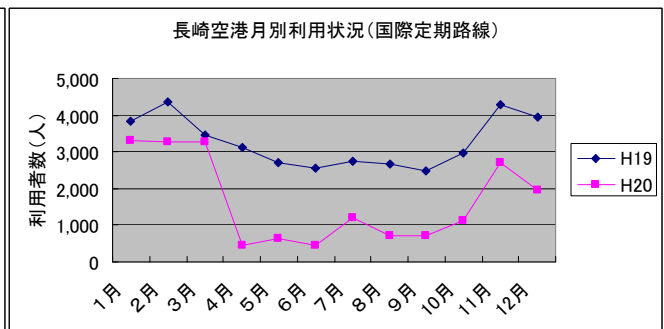
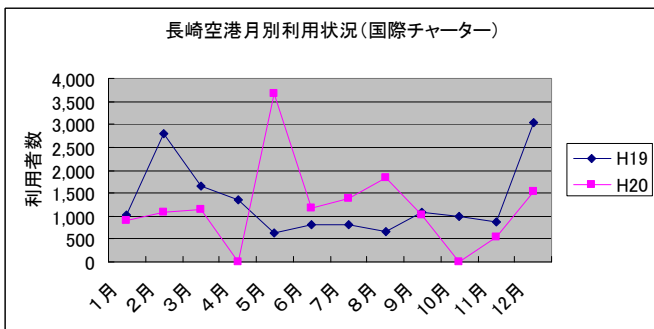
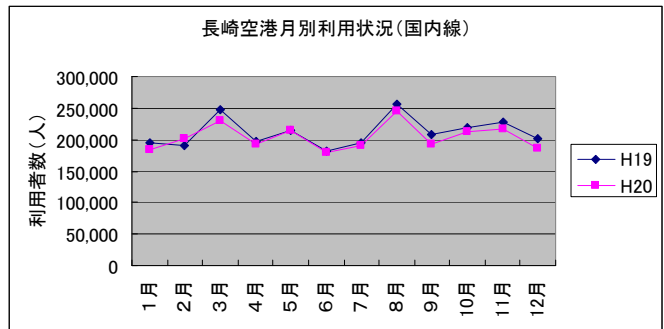
0 100 200 300 400m

長崎空港月別利用状況

国際定期便・チャーター便は、上海(浦東)とソウル(仁川)の2空路

長崎空港月別利用状況 (人)

	平成19年	平成20年
国内線	2,531,459	2,446,777
国際定期路線	39,121	19,827
国際チャーター	15,711	14,268



中国東方航空 長崎⇄上海(浦東)、大韓航空 長崎⇄ソウル(仁川)

国内旅行「魅力度ランキング」

本県、7
間中6
間トップ
10

08年度

旅行情報誌「じゃらん」を発行するリクルート(東京)は、国内宿泊旅行者を対象にした2008年度アンケートの結果を発表した。「都道府県別魅力度ランキング」で本県は「特産品や土産物」「宿泊施設」で5位にランクされるなど、七つの設問中6問でトップ10に入った。

アンケートは観光などを目的とした旅行の実態を知るため毎年実施しており、今年で5回目。出張や帰省、

「特産品や土産物」「宿泊施設」 5位にランクイン

修学旅行を除く国内旅行者が質問に該当する都道府県を答えた。

「特産品や土産物」(前年度同の5位)や「地元ならではのおいしい食べ物」(前年度11位から9位)ではカステラ、ちゃんぽん、佐世保バーガーなど「幅広い食が人気を集めている」と担当者。「地元の人のもてなしの心を感じた」は前年度7位から12位にダウン。1位は沖縄で、4年連続だった。全国の国内宿泊旅行者数は約1億7400万人(前年度比0.9%減)、宿泊数は2億9200万泊(1.2%減)。宿泊費用の総額は約8.8兆円で前年度比約2千億円増加し、1回(大人1人)当たりの平均宿泊費用は1100円増加の5万6000円。4年ぶり5万円台になった。旅行者の形態は「小学生以下の子どもの家族旅行」が減少し、逆に「一人旅」が増加。調査以来初めて順位が逆転した。

21.8.13(木)

長崎新聞

TOPIC 《テーマ別・都道府県別魅力度ランキング①》

■地元ならではのおいしい食べ物が多かった

(単位:%)

－ 1位:沖縄県、2位:高知県、3位:香川県

「沖縄そば」をはじめとして「ゴーヤチャンプル」、「ラフテー」など郷土料理が多数あげられた沖縄県が第1位に。

次いで、高知県では「カツオのタタキ」、香川県では「讃岐うどん」が圧倒的に支持されている。

全体の傾向として、刺身・魚介類一般・カニ・ウニ・エビなど、地元でとれる新鮮な海の幸をあげる声が多い。また、全国共通で「そば」「ラーメン」「うどん」等ご当地麺類があげられている。「飛騨牛」「神戸牛」など各地のブランド食材や、郷土料理も見られた。

2009年 順位	
全体平均	54.1
1位 沖縄県	72.0
2位 高知県	71.5
3位 香川県	70.8
4位 鹿児島県	69.9
5位 北海道	69.8
6位 福井県	69.2
7位 宮城県	68.2
8位 山形県	67.6
9位 長崎県	67.4
10位 青森県	66.5

2008年 順位	
全体平均	54.2
1位 香川県	72.9
2位 高知県	72.8
3位 北海道	69.5
4位 鹿児島県	69.1
5位 沖縄県	68.4
6位 福井県	67.5
7位 宮城県	67.2
8位 石川県	66.9
9位 静岡県	65.3
9位 福岡県	65.3

■魅力のある特産品や土産物が多かった

(単位:%)

－ 1位:沖縄県、2位:鹿児島県、3位:京都府

第1位は、独特の文化を感じさせる沖縄県。

次いで、昨年4位からランクアップした鹿児島県、日本の伝統文化を感じさせる京都府が続く。

第1位となった沖縄県では「泡盛」「ちんすこう」「琉球ガラス」など沖縄ならではの特産品が並ぶ。第2位にランクアップした鹿児島県では、「さつま揚げ」「焼酎」「かるかん」などご当地お菓子があげられた。第3位京都府では「漬物」「八ツ橋」などがあげられ、有名な特産品を持つ都道府県が上位にきている。全体の傾向として、お菓子や海産品などをあげる声が目立った。

2009年 順位	
全体平均	41.6
1位 沖縄県	68.9
2位 鹿児島県	59.9
3位 京都府	59.6
4位 高知県	58.9
5位 長崎県	57.0
6位 北海道	56.1
7位 青森県	53.1
8位 宮崎県	52.2
9位 石川県	50.7
10位 宮城県	49.9

2008年 順位	
全体平均	41.5
1位 沖縄県	66.1
2位 京都府	60.7
3位 北海道	55.8
4位 鹿児島県	55.2
5位 長崎県	54.6
6位 宮崎県	54.2
7位 高知県	51.5
8位 佐賀県	49.1
9位 広島県	49.0
10位 香川県	48.9

■魅力的な宿泊施設が多かった

(単位:%)

－ 1位:沖縄県、2位:千葉県、3位:大分県

リゾートホテル人気の高い沖縄県が第1位。

次いで、昨年4位からランクアップした千葉県、温泉と伝統ある旅館の人気の高い大分県が続く。

第1位の沖縄県に次いで、テーマパーク付近のホテルが支持された第2位の千葉県、露天風呂や温泉のある宿があげられた第3位大分県と続いた。また、第10位にランクインした和歌山県は、昨年の第17位から順位を上げた。

2009年 順位	
全体平均	36.6
1位 沖縄県	55.6
2位 千葉県	51.5
3位 大分県	49.7
4位 熊本県	45.3
5位 長崎県	44.0
6位 石川県	43.1
7位 北海道	41.9
8位 鹿児島県	41.4
9位 神奈川県	41.2
10位 和歌山県	40.5

2008年 順位	
全体平均	36.5
1位 沖縄県	54.3
2位 大分県	50.8
3位 熊本県	49.9
4位 千葉県	47.3
5位 長崎県	47.0
6位 岐阜県	45.1
7位 石川県	41.6
8位 北海道	40.5
8位 栃木県	40.5
10位 京都府	40.4

■地元の人へのホスピタリティを感じた

(単位:%)

－ 1位:沖縄県、2位:鹿児島県、3位:秋田県

秋田県がポイントを上げ、昨年10位から3位にランクアップ。沖縄県が4年連続1位で、2年連続でポイントを上げている。

昨年と同じく第1位の沖縄県が、第2位以下を15ポイント以上離す結果となった。昨年と同様の傾向で、関西以西の西日本から数多くトップ10入りしている。第9位新潟県は昨年28.9%から今年30.9%を獲得してランクインした。

※本設問では、フリーコメントの回答を設定していない。

2009年 順位	
全体平均	25.5
1位 沖縄県	56.4
2位 鹿児島県	40.6
3位 秋田県	37.9
4位 高知県	35.3
5位 宮崎県	34.6
6位 京都府	31.6
7位 青森県	31.5
7位 熊本県	31.5
9位 新潟県	30.9
10位 奈良県	30.8

2008年 順位	
全体平均	25.7
1位 沖縄県	53.4
2位 鹿児島県	38.8
3位 宮崎県	38.3
4位 高知県	36.4
5位 青森県	34.8
6位 奈良県	34.0
7位 山形県	33.7
7位 長崎県	33.7
9位 京都府	33.0
10位 秋田県	32.7
10位 熊本県	32.7

TOPIC

《テーマ別・都道府県別魅力度ランキング②》

■子供が楽しめるスポットや施設が多かった

ー 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:和歌山県

「東京ディズニーリゾート」を擁する千葉県が、断トツの第1位。次いで、「沖縄美ら海水族館」が人気の沖縄県、「アドベンチャーワールド」や「サファリパーク」があげられた和歌山県と続く。

全体の傾向として、テーマパークや水族館・動物園、自然体験ができる施設などが高い支持を集める結果となった。

第1位は千葉県。第2位沖縄県を21.3ポイント離しているものの、昨年と比較すると、沖縄県のポイントがアップし、若干だが差が縮まった形となった。

(単位:%)

2009年 順位		2008年 順位	
全体平均	21.4	全体平均	21.1
1位 千葉県	64.5	1位 千葉県	60.9
2位 沖縄県	43.2	2位 沖縄県	37.3
3位 和歌山県	34.9	3位 三重県	35.6
4位 三重県	33.0	4位 和歌山県	32.0
5位 大阪府	29.0	5位 大阪府	31.6
6位 栃木県	27.7	6位 栃木県	26.7
7位 長崎県	27.0	7位 長崎県	26.0
8位 熊本県	25.0	8位 山梨県	25.7
9位 東京都	24.2	9位 熊本県	25.2
10位 山梨県	23.7	10位 東京都	24.2

■若者が楽しめるスポットや施設が多かった

ー 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:大阪府

上位の顔ぶれは昨年とほぼ変わらず。テーマパークと都市観光が強いエリアが上位にランクイン。

全体の傾向として、テーマパーク、水族館・動物園、買い物や食べ歩き目的の街や施設をあげる声が目立つ結果となった。野球場やスポーツ（スキー、マリンスポーツなど）と回答する声も多い。

第1位の千葉県は、「東京ディズニーリゾート」が圧倒的な人気だが、第2位の沖縄県、第3位の大阪府は、テーマパークに次いで買い物や食べ歩き目的の回答が多い。

(単位:%)

2009年 順位		2008年 順位	
全体平均	26.4	全体平均	25.9
1位 千葉県	61.0	1位 千葉県	56.7
2位 沖縄県	58.4	2位 沖縄県	54.8
3位 大阪府	47.1	3位 大阪府	48.6
4位 東京都	46.0	4位 東京都	45.6
5位 福岡県	38.0	5位 福岡県	43.0
6位 神奈川県	31.7	6位 長崎県	29.8
7位 兵庫県	31.0	7位 神奈川県	29.3
8位 長崎県	28.0	8位 兵庫県	27.8
9位 三重県	26.9	9位 北海道	26.5
10位 長野県	25.2	10位 宮崎県	25.4
10位 和歌山県	25.2		

■大人が楽しめるスポットや施設が多かった

ー 1位:沖縄県、2位:千葉県、3位:京都府

沖縄県が昨年3位から第1位にランクアップ。「沖縄美ら海水族館」「首里城」「国際通り」などがあげられた。次いで千葉県、「寺院」「神社仏閣」や「祇園」の人気が高い京都府と続く。

昨年から引き続き、全体の傾向として“子供が楽しめる...”と比べて、多岐にわたるスポットや施設があげられる結果となった。名所・旧跡や自然園、テーマパーク、美術館、温泉、買い物などの回答が目立つ。第10位の三重県は、昨年第22位からランクアップ。伊勢神宮、おかげ横丁などが多数あげられていた。

(単位:%)

2009年 順位		2008年 順位	
全体平均	41.3	全体平均	40.0
1位 沖縄県	59.3	1位 千葉県	57.1
2位 千葉県	59.2	2位 京都府	56.7
3位 京都府	58.5	3位 沖縄県	56.4
4位 奈良県	54.5	4位 東京都	50.0
5位 東京都	50.6	5位 大阪府	49.0
6位 大阪府	47.8	6位 長崎県	46.8
7位 神奈川県	47.3	7位 奈良県	46.7
8位 福岡県	45.7	8位 福岡県	44.3
9位 長崎県	44.3	9位 神奈川県	43.4
10位 三重県	43.7	9位 兵庫県	43.4

<ランキングの算出方法> ※集計は延べ宿泊旅行件数がベース

- ①各テーマに関し、訪問した都道府県の評価を「そう思う」「ややそう思う」「普通」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。
- ②「そう思う」「ややそう思う」を合計した割合が多い順に都道府県をランキングしている。

<コメントの回答方法>

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に対して、任意でフリーコメントを記入させている。

※対象設問:「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設が多かった」

<参考>宿泊旅行の目的

※ベース:延べ宿泊旅行件数(複数回答)。上位10項目(その他以外)抜粋

(%)

	[09年]	[08年]
温泉や露天風呂	36.0	36.1
地元の美味しいものを食べる	34.4	30.2
名所、旧跡の観光	29.7	28.1
宿でのんびり過ごす	28.7	28.0
まちあるき、都市散策	16.9	15.8
友人・親戚を訪ねる	14.1	14.1
テーマパーク (遊園地、動物園、博物館など)	13.6	14.0
買い物、アウトレット	11.4	10.6
花見や紅葉などの自然鑑賞	10.7	10.9
ドライブ・ツーリング	6.3	7.2

※08年「地元の美味しいものを食べに行く」→09年「地元の美味しいものを食べる」と選択該変更